

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名 民政クラブ

代表者名 加藤嘉哉

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和 7 年 5 月 20 日提出

活動年月日	令和 7年 4月 15日（火）～ 4月 18日（金）	
氏名	柴田敏光・鈴木英樹・原紀彦・瀬戸清太郎	
用務先 及び 内 容	1	用務先 新潟県新潟市
	4月 15日	内 容 新潟動物ネットワークについて
	2	用務先 山形県南陽市
	4月 16日	内 容 ラーメン課プロジェクトについて
	3	用務先 栃木県鹿沼市
	4月 17日	内 容 アニマルセラピーについて
	4	用務先 東京都三鷹市
	4月 18日	内 容 犬への本の読み聞かせについて
備 考		

視 察 者	柴田敏光・鈴木英樹・瀬戸清太郎、原紀彦
視 察 日 時	令和 7 年 4 月 1 5 日(火) 14 時 00 分～15 時 30 分
視 察 先 ・ 概 要	新潟県 新潟市【人口】763,369 人 【面積】725.99 k m ² 【世帯数】351,362 世帯
視 察 内 容	新潟動物ネットワークについて
選定理由(目的)	新潟市動物愛護センターおよびボランティア団体新潟動物ネットワークの「人と動物との共生を目指して」一人ひとりができることを考え実行していく考え方および活動が、岡崎市動物行政推進計画の方針に等しいことから、現場の取り組みや行政や地域との連携など様々な角度から調査研究するため今回の視察先として選定した。
岡崎市の現状と課題	岡崎市ではSDGsの考え方を取り入れた「岡崎市動物行政推進計画」を令和 3 年4月に策定し、中間見直しが来年に迫っている。 施策をより効果的に行うためには様々な実施主体と連携・協働していく必要がある。また、東公園動物園は開園から37年余りが経過している施設で今後はアニマルウェルフェアに配慮した改修が必要となっている。
視 察 概 要	【新潟動物ネットワーク（略してNDN）人と動物の共生を目指して】 ■ 基本的な考え ・人と動物の共生を目指して、1 人 1 人がやりたいことを実現できる「場」をつくる ・スタッフが保護猫カフェや高齢者向けシッターなど開業 ・社会の一員として活動する 独りよがりな活動はしない、他者を批判するのではなく目指す社会を考える ■ 概要 基本理念：「目の前の 1 頭の命を大切に思う」とことと「社会の中での動物のあり方を考えて活動する」こと 発足：2001 年 7 月 会員：約 1600 名 スタッフ：約 90 名 活動内容：動物愛護・動物福祉の普及啓発 目的：人にも動物にも幸せな社会に暮らしたい 活動：伴侶動物だけでなく、展示動物・畜産動物にも幅を広げる。動物愛護と動物福祉の融合（日本らしい動物福祉の広げ方） 1. 犬や猫の譲渡活動 2. 野良猫不妊去勢手術助成金 3. 猫の手募金 4. イベントや勉強会の開催 5. 学校訪問 6. 災害時の支援など 【新潟市動物愛護センター】 ■ 基本的な考え方 ・命の教育をする ・命をつなげる ・命を守る ■ 概要 動物の収容・保護：迷子や遺棄された犬猫等の保護、健康管理、適切な飼育環境の提供。 譲渡促進：保護動物の里親募集、譲渡会の開催、譲渡前後のフォローアップ。 啓発活動：市民や学校向けの動物愛護教室、出前授業、地域イベントを通じた意識啓発。 地域連携：新潟動物ネットワーク等の市民団体やボランティアと連携し、保護・譲渡活

動を効率化。

殺処分ゼロへの取り組み：不妊・去勢手術の推進、TNR(Trap-Neuter-Return)活動支援、譲渡率向上による殺処分抑制。

【Q&A】

Q 市への協力要請が受け入れてもらいにくいなか、どのように行政を巻き込んでやってきたのか？

A 何か目標があったときに戦略が必要。地域猫を定着→委員会をつくった。

そこから提言とかを導いて行政を巻き込んでいく。

(行政) 獣医師会の先生とかを巻き込んで推進したらどうか。

(NDN 会員) 人間が困っているから動物の話をしていく方法ではどうか。

Q 里親とか譲渡会とか、新潟は愛護団体一つだが、それだけで回している秘訣は？

A (NDN) 代表を頼って運営の勉強に来るので団体間の連携が深くなっている。

去勢手術の様子



保護犬の様子



しつけ体験室の様子



【柴田敏光】

新潟動物ネットワークは、新潟市動物愛護センターと連携して、猫の保護活動や譲渡会の開催・アニマルウェルフェアの活動を行っており、新潟市として2025年度より助成事業を始めた。また、施設は市民が集える事も考慮し中心市街地に設置したことにより、多くの利用者と市民への周知もしやすいことから、場所の選定も非常に大事であることを改めて認識した。助成制度については、飼い猫・犬に対しても行われているが、飼い主に対しては慎重に判断することも必要であると感じた。動物に対しての生命のあり方を行政としてもしっかりと向き合って考えるべきである。

また、いろいろと活動をするにあたり、発信力のあるテレビなどマスコミをうまく巻き込んで行うことが有効であることも再確認できた。マスコミ、SNSの発信を本市もうまく利用するよう望む。

【鈴木英樹】

4つの視点で参考になりました。①組織として目指すものと戦略が明確となっている。その事により、派生する各活動も同じ考えのもと連携して取組を進められている。②会長の岡田さん（歯科医）が、補助金に大きく頼らず、自ら寄付を募る姿勢など、バイタリティに富んだ自立的な運営をベースとしている。③各関係機関との人脈づくりに優れ、活動するための仲間（ネットワーク）づくりに長けていた。④①～③を活かしプロモーションにより、現在の位置づけに達し、災害時や家畜など幅広い動物保護活動に取組まれていた。また、行政も巻き込み、次世代の子どもたちの育成にも一役買っていた。

本市も、狙いや目的を明確にし、そこに集う人達が一丸となって戦略的に取組まれ、命

本市への反映
(意見・課題など)

の大切さや動物保護活動を通じ幅広い取組に繋がるように生かしたいと考えます。

【原紀彦】

新潟市動物愛護センターは、動物の保護、譲渡、愛護活動の推進を目的とし、迷子犬・猫の保護や新しい飼い主への譲渡、飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費用の助成、地域猫活動支援などを行っている。新潟動物ネットワークは、新潟市動物愛護センターと連携し、猫の保護活動や譲渡会の開催・アニマルウェルフェアの活動に力を注いでおり、2025年度より助成事業を展開している。センター内には、猫の多頭飼育崩壊を防止するための猫の不妊手術専門病院「にゃんがたセンタークリニック」が昨年より開設された。両者とも人と動物の共生を目指した取り組みに共感が持てた。

本市ではSDGsの考え方を取り入れた「岡崎市動物行政推進計画」を令和3年4月に策定し、中間見直しが来年に迫っている中、施策をより効果的に行うためには様々な実施主体と連携・協働していく必要がある。今後はアニマルウェルフェアに配慮した内容や今回の視察を受け提言内容を研究していきたい。

【瀬戸清太郎】

新潟県新潟市の官民協働による動物愛護活動の一部として、動物愛護団体・行政・動物愛護センター・獣医師が新潟市の動物愛護センターの施設を民間愛護団体が使用し、多頭崩壊に陥った猫たちを一度に20頭の虚勢避妊手術や療養が出来る専門のクリニック（「にゃんがたセンタークリニック（NSC）」）を立上げた。

行政への資金補助に全てを頼らず独自の寄付支援活動によって費用を抑える等、運営スキームに関して大変参考になった。本市も行政による捕獲・手術・リリースを行う活動（TNR）は行っているが、本市も視察先の取組みを参考に、行政と愛護団体がもっと連携できる仕組みづくりに取り組み、家畜を含めた動物たちの大切な命を大切にする活動を進める必要があると感じた。



新潟市動物愛護センター前にて

視 察 者	柴田敏光・鈴木英樹・瀬戸清太郎、原紀彦
視 察 日 時	令和7年4月16日(水) 13時30分～15時00分
視 察 先 ・ 概 要	山形県南陽市（R02 国勢調査時） ・人口：30,420人 ・世帯数：220,070世帯 ・面積：160.52km²（県内24位） ・特記事項：1967（昭和42）年に市制施行。地勢的には、米沢盆地の東北部に位置し、市域の形状は三角形に近い。中央部を南北に吉野川と織機川が貫通し、南端部を東西に流れる最上川に合流している。北に丘陵、南は沃野に恵まれ、比較的温暖な気候である。市の名前は中国の故事「南陽の菊水」にちなんだもので、その経緯から中国の南陽市とは友好都市提携を結んでいる。
視 察 内 容	ラーメン課プロジェクトについて
選 定 理 由（目的）	昨年、倒産・休廃業したラーメン店は過去最多を更新し、その8割以上が“個人店”でした。その中には老舗の店もあり、店主の高齢化と担い手不足が原因と言われています。その状況において、市長自らまちのソウルフードでもある「ラーメン」を活かし知名度向上に取り組まれている。その取組は、市内の中高生のアンケートから南陽市の魅力はラーメンであることをきっかけに進められた。いわゆる、若い方たちにも地元の食文化と魅力が浸透している状況にある、そこでどのように店の継承の支援をしているのか確認するために選定をする。
岡崎市の現状と課題	全国と同様に、本市も3代続いた老舗店も現実的に閉店しました。様々な支援策を進めているがラーメン店に限らず、伝統的な老舗の継承が危惧される状況にある。
視察概要 ＜視察の様子＞ 白岩市長と遠藤議長 みらい戦略課 穀野課長と船山係長  視察メンバー  	1、ラーメン課プロジェクトの経緯と背景について ＜経緯＞ 平成26年度に市内中高生に実施したアンケートで、「市外、県外の方に伝えたい南陽市の魅力」の問いに「ラーメン」との回答が多くありました。また、平成27年度に「第1期南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定にあたった「みらい戦略チーム」からも、ラーメンを軸としたまちづくりの提案がなされ、南陽市の強みは「ラーメン」と考えられ、日本初「ラーメン課」が誕生する。 ＜背景＞ ・人口10万人当たりのラーメン店舗数の比較 南陽市：205店舗、山形県：約36店舗、東京都：約15店舗 ※データ元：平成28年経済センサスから ・1世帯当たりの中華そば（外食）の年間支出金額（2024年） 1位：山形市 22,389円、2位：新潟市 16,292円、3位：仙台市 15,534円 ※データ元：総務省家計調査品目別による ・ラーメン出前文化⇒「ラーメンは おもてなし ごちそう」家族で食べるが根付く 2、取組み概要について ①ラーメンマップの制作や駅構内への横断幕設置 ②ラーメンカードラリー 2018年スタートして、2019年から人気漫画ラーメン大好き小島さんとコラボ開始。 

視察前に対応頂く
文化会館江口館長



予算は120～130万円で「予算は一番低く 効果は高く」をモットーに取り組む。
2022年からは、継続的にアニメを活用するとともに新横浜ラーメン博物館とコラボを開始。2024年には、シンガーソングライター（レゲエグループ・湘南乃風のメンバー）ハンクンやまてつとコラボを開始。

※参加者数（カード配布数） 2023年：26,864人(枚)、2024年：23,159人(枚)

③インバウンド事業

世界的なアニメ人気により、国内外からの誘客を図る

- ・山形鉄道フラワー永井線車両ラッピング



- ・ラーメンラッピングトラック
- ・外国人モニターツアー 2023年参加者39人がオリジナルラーメンづくり体験や宿泊などを実施する。

3、市内ラーメン店との協力体制について

ラーメンカードを活用し（各オリジナルカードを配布）マニア向けの魅力づくり

- ・旅館とタイアップ 宿泊＋昼ラーメン
- ・書店とタイアップ 小泉さん単行本購入＋ラーメン
- ・山形鉄道とタイアップ 山形鉄道乗車＋ラーメン

4、経済効果について

年	2021	2022	2023	2024
経済波及効果	1億300万円	1億3,800万円	1億7,000万円	1億4,400万円
市内経済波及効果	5,400万円	7,000万円	9,100万円	7,200万円

※総務省「産業関連表による経済波及効果簡易計算ツール」による

5、課題と今後の展開について

- ・2024年から参加者の減少。今後は、アニメやシンガーソングライターとのコラボを活かし、更なるオリジナリティーのある景品の制作による魅力づくりと新たなPR活動を展開する。
- ・「ラーメン課」のある三大ご当地ラーメン福島県喜多方市と協定を結び、連携して交流人口の向上を狙う。

※喜多方市の概要と取組の違い

人口：41,980 人、人口 10 万人当たりの店舗数：2 1 4 店舗（日本一）
（ラーメン店舗数：約 90 店舗）札幌・博多ラーメンと並ぶ日本三大ご当地ラーメン。
ラーメン課立ち上げの背景は、喜多方市は伝統的な醤油ラーメンで、店主の高齢化と担い手不足による継承の危機が課題。その対応策として、老舗店のノウハウを若い世代へ継承する仕組みを構築し食文化の存続を狙う。それに対し南陽市は、ラーメンの食文化の浸透があるが、味の拘りが無いため多岐にわたる味の店舗が存在する。その結果、市内外からも幅広い客層に対応できることから、店が倒産・休廃業する状況がほぼない状況にある。

- ・「必ず 好きなラーメンに 出会えるまち 南陽」を P R し続ける。

6、Q & A

- Q ラーメン課設置により市内の盛り上がりの変化はあったのか伺う。
- A 市内 4 0 店舗あるが、今まで行っていない店舗など、先ずはどのようなお店か知るため課内では全店舗制覇をした。また、市内においても、同様に言った事のない店舗に訪れることや景品をもらったことなどで盛り上がっている。
- Q 市内外から訪れた方たちによる入店前の行列等による市民の意見や苦情があったのか。また、ない場合前向きな意見等はあったのか伺う。
- A 特に意見・苦情等の内容はなかった。ラーメン店舗自体も、市の知名度を上げたいという想いと、市民の方も盛り上げたいという想いからだと推測する。また、前向きな意見も特になく、県民性なのかラーメンを活用して知名度を上げていることが自然と浸透していた状況にある。但し、カードラリーを始めた際には、ラーメンを食した後にカードをもらうルールに対し、店舗によりカードを受付においてあり、食せずにカードのみを取るマナーの悪い方が見えた。そのことにより、カードがもらえない方が発生した。
- Q 自転車で回られる方への体制整備について伺う。
- A 電車等が不便な状況にあるため、風土的にも自転車が活用されている。そこでレンタサイクルを準備する。中には、1 時間かけてこられる方も見えた。
- Q 岡崎においては、地元食材を活用したラーメンで盛り上げようとしたが、店主同士の連携が取れない状況にあったが、こちらでは店主同士の連携の状況について伺う。
- A ラーメン屋さん自体が「信念」を持って経営されているので、ある既定の枠組みで制約をかけること自体が難しいと考える。その状況で、行政側がこうしようということ自体も難しいと考える。

本 市 へ の 反 映
(意見・課題など)

【柴田敏光】

南陽市に「ラーメン課プロジェクト」について視察を行った。市内にラーメン屋店が点在して多くあることから、スタンプラリーなど行い誘客を行っている。また、アニメとのコラボで認知度を高め、ラーメン課という課を創設することで強いインパクトをあ

たえることで知名度を上げている。ラーメンカードの発行もおこなう事で、収集を目的とした人を誘客することも行っている。

本市も観光に限らず、思い切った施策を取ることで話題となることも考えられるので、いろいろな面から検討していくべきである。

【鈴木英樹】

3つの観点で参考になりました。1点目は、まちづくり創生のため、日常的にラーメンを出前する文化が子ども達に密着していることをヒントに、市長が「ラーメン課」を立ち上げトップセールスをされて、地域の絆やラーメンの継承に尽力をされていた。2点目は、特徴的なのは、全国的にラーメン店舗が倒産する傾向にある中で、ラーメンの味に拘らないことから、多様性となり自然的に現存の店舗が存続していた。3点目は、PR活動をする際に、世界的にも日本アニメが認知されていることを活用し、市外からの誘客促進をされ交流人口の増加を図り市の認知度向上に努めていた。

本市においても、地元根付いた飲食店が多くある中で、事業継承が難しい状況にあります。食文化も含め伝統的な老舗についても、市内外への誘客に結び付けるように、多様性の観点で若者に魅力となるように取組んでいく。

【原紀彦】

南陽市は、アンケートを通じて市民が「ラーメン」を地域の魅力と感じていたことを発見し、地域活性化を目指し日本初の「ラーメン課」を設立した。しかし、市外、県外の方に「南陽市＝ラーメンの美味しいまち」として認知されていない現状もあったため、官民協働で行うプロジェクトとして、平成28年7月2日に「南陽市役所ラーメン課R&Rプロジェクト」が発足された。

参考になった点は、市民のソウルフードを活用した地域ブランディングや官民協働によるプロジェクトの推進などに加え、統一された味の定義がないことを逆手に取った戦略は素晴らしい取組だと考える。本市においても地域資源を最大限に活用するために、ブランディングや地域特性の課題をしっかりと整理し学んだことを活かせるよう働きかけを行っていきたい。

【瀬戸清太郎】

南陽市では地方版総合戦略として官民連携して取り組んだラーメン課プロジェクトが立ち上がった。立上げまでのプロセスや今も続く取り組みでは、市民アンケートや中高生からの聞き取り、過去から市民に愛されている「食（ラーメン）」を軸とした取組みと若い世代の意見を取り入れ市民に楽しんでもらおうとする行政側の働きかけによるプロジェクト発足手法や、有名漫画家とのコラボレーションや運送会社トラックのラッピングによるPR、ラーメン組合と行政が連携して企画を運営する等、民間意見を積極的に取り入れる民間に近い自治体運営が市を活性化する事例として参考になった。

本市も歴史や文化を軸とし、行ってみたくなる岡崎を目指す施策には活気が必要だと考えるが、そうした取組を進める上で市民目線をより一層考慮した官民連携の取り組みを更に進める必要性を感じた。

視 察 者	柴田敏光、鈴木英樹、原紀彦、瀬戸清太郎
視 察 日 時	令和7年4月17日(木) 10時00分～11時30分
視 察 先 ・ 概 要	栃木県鹿沼市【人口】94,033人【面積】490.64㎡【世帯数】36,098世帯 ・市内の7割が森林。とちおとめ等の苺生産量日本一。日本独自の木工技術である鹿沼組子や鹿沼のカフェ文化が有名。東京から約100kmで北部は日光市と隣接している。
視 察 内 容	アニマルセラピーについて
選定理由(目的)	アニマルセラピーは、動物とふれあうことで情緒の安定や生活の質の向上を目的として全国的に実施されている。視察先のNPO法人とちぎアニマルセラピー協会は、アニマルセラピー活動全般の他に、全国的にも珍しいセラピー犬とふれあえるカフェを運営しており、本市のアニマルセラピーの活性化や持続的な活動への課題を表出し、様々な角度からアニマルセラピー活動の実態や課題を調査するため選定した。
岡崎市の現状と課題	アニマルセラピーは、市民病院緩和ケア病棟で毎月第4水曜日に定期開催。他も高齢者利用施設で実施。衛生面や運営面で人手を要し効果は理解するも活性化に課題も。なお、岡崎市動物行政推進計画や地域包括ケア計画にアニマルセラピーは網羅されていない。
視 察 概 要	1、視察先の所在 ・NPO法人とちぎアニマルセラピー協会（鹿沼市府中町102-28） ・セラピー犬とふれあえるカフェ café Maera（マイラ）（鹿沼市日吉町846） 2、視察先の事業概要 動物と共に沢山の人の笑顔を届けることを活動理念とし、愛犬家・青少年児童等及び各種老人施設・病院・養護施設・小学校等の公共機関並びに認知症等の対象者に対して、精神的、肉体的及び生活向上促進を目的とする動物介在療法および動物介在活動事業を行うとともに、直営施設（カフェマイラ）での広報啓発活動および一般市民への動物介在活動を通じ、社会福祉活動に寄与している。 ◆活動範囲 栃木県を中心に、茨城県、群馬県、埼玉県他、広域的に活動。 ◆セラピー実施者 セラピー犬とハンドラー（飼い主）で活動を実施。協会認定の資格試験があり、一定の能力を担保したハンドラーで構成。 ◆セラピードッグ 希望者・団体に応じ会員と飼育しているセラピー犬を招集。 3、視察結果 (1) セラピー活動の分類について ①動物介在活動AAA（Animal Assisted Activity）※主にこの活動が多い 主に「アニマルセラピー」を指し、動物とふれあい情緒安定や生活の質向上を目的とする。 ②動物介在療養治療AAT（Animal Assisted Therapy） 医師や看護師、作業療法士などの医療従事者が、動物を介在して行う療法のひとつ。 ③動物介在教育AAE（Animal Assisted Education） 子どもを主な対象とし、人格形成や学習意欲の向上等を目的とした動物介在活動。 (2) とちぎアニマルセラピー協会によるアニマルセラピー活動事例 ・障がい者支援施設等で生活支援活動やこども達への心のバリアを取り除く活動



セラピー犬たち

- ・厚生労働省が推進する『オレンジまいら（認知症カフェ）』※毎月開催
- ・不登校児童を対象としたふれあいイベント
- ・女子刑務所への慰問活動と入所者による保護犬の育成
- ・犬への本の読み聞かせ活動へのセラピードッグ派遣



施設（飼育スペース）

（3）アニマルセラピーや犬の飼育による効用、課題

- ・高齢者の犬の飼育は運動習慣の維持・継続がされ、非飼育者と比較しフレイルが2割程度、要介護や死亡リスクが5割程度減少、認知症発症が4割程度低いとの結果も。
- ・うつ病患者や認知症高齢者など、何らかの介助や手助け、行政支援が必要な方こそアニマルセラピーを必要とする人が多く、少子高齢化の時代に適した福祉と考える。
- ・高齢者による犬の飼育は、散歩などの運動習慣と社会参加で孤立を防ぐ効果もある。
- ・飼い主に介護が必要となる等、飼育が困難な場合の飼育不能や放棄となる懸念も。
- ・アニマルセラピー犬を健康・清潔に保つための、飼い主の負担（時間、金銭）が大きい。

（4）その他

大中小のセラピー犬5頭は、威嚇や触られるのを嫌がらず、初めて犬とふれあう方にも安心だと感じた。

4. 主な質疑応答

Q1 活動資金はどのように賄っているのか。

A1 主に会費やカフェの収入と自己資金。クラウドファンディングも厳しい。

Q2 アニマルセラピーに関し鹿沼市からの支援や補助は有るか。

A2 支援は無い。セラピーに関する効果はやや認知されてきたが、セラピー犬が盲導犬のように労働として認知されず、ボランティアとなってしまう。

Q3 地域に認知された活動となるまでのプロセス等は。

A3 しっかり活動して人目を惹いて、人に関心を持って頂くことに尽きる。

Q4 セラピー犬となるまでのプロセスは。また、保護犬はセラピー犬として活躍できるか。

A4 保護犬問わず、セラピー犬に向いているか認定試験を行っている。

Q5 犬への本の読み聞かせを実現するための、手法やアドバイスは無いのか。

A5 事前に健康診断やシャンプーを行う事や訓練されたセラピー犬が訪問するという事を粘り強く行政に訴え、行政との信頼関係構築が重要である。



代表とセラピー犬



説明風景

（参考）NPO 法人とちぎアニマルセラピー協会さまの活動紹介冊子



本市への反映 (意見・課題など)	【柴田敏光】 栃木県鹿沼市のCafe Maeraにて視察受け入れをしていただき、「アニマルセラピー」について取り組みなど説明を受けた。緩和ケア、高齢者施設等でのセラピー犬を通じて動物介在療法を行う活動をしていた。 本市でも同様にセラピー犬によるアニマルセラピー活動の時間は非常に喜ばれる活動であると聞いている。ただ、活動を行うことに對し、まだまだ行政の理解が薄く、資金に対して苦勞をしていることも説明を受けた。ボランティアでも餌代・狂犬病の注射・シャンプーなど継続的な資金が必要となるが、がん患者など余命宣告された患者様の希望者に対し、穏やかな生活を送っていただくため、本市もセラピー犬の利用助成の検討を望む。 【鈴木英樹】 4つの観点で参考になりました。1点目、「アニマルセラピー」について全国的にも活動をしているが、活動実態が見えてこない事や地域の安心感につながらないことから、未だ市民権（認知度が低い）が無い状況にあること。2点目、欧米との違いは、寄付文化があるため運営自体の負担が無いようになっている。日本においても、東日本大震災時は寄附等が多いため負担が軽減されたが、その後はエサや動物の衛生管理などの費用も含め団体自己負担で運営しているため厳しい状況にある。また、カフェを運営し少しでも費用負担の軽減を図るが、従業員はほぼボランティア状況にあったこと。3点目、国立病院機構宇都宮病院の活動を通じ吃音（きつおん）障害に適していること。また、医者の決定権により活動の有無が左右されること。4点目、犬の性格によって向き不向きがあること。 海外において実証論文も紹介されてることから、先ずは多面的なりハビリとしての理解が得られるような取組を通じ、セラピードッグにより少しでも心の緩和医療が認知されることを期待するものです。 【原紀彦】 栃木県鹿沼市のCafé Maeraでは、全国的にも珍しいセラピードッグが常駐するカフェで、厚生労働省が推進する認知症の高齢者や介護に悩む家族に社会参加をする場として「オレンジまいら」を開催している。 利用者の癒し効果としてセラピードッグとのふれあいによる効果として、血圧の正常化、うつ病や認知症患者の心の安定が化学的にも実証されつつある。また、セラピードッグを介したコミュニケーション促進や仲間づくりなどのアニマルセラピー効果が挙げられるが、セラピードッグの育成や管理・運営資金の確保・施設と環境の整備などの課題を勉強させていただいた。本市への適合などさまざまな観点から研究していきたい。 【瀬戸清太郎】 アニマルセラピーは、高齢者だけでなく、様々な症状を抱えている方の生活の質や病気の治癒、痴呆症や認知症防止の効果や人生の質、生命の質の向上に繋がり、こども達の健全な心身の発達にも寄与すると説明を受けた。年代を超え福祉全般の有効策であるが、こうした取り組みの資金は、主に会費とカフェを通じ活動資金を捻出しつつ活動していた。 アニマルセラピーを活性化するためにも、アニマルセラピーを求める施設等がセラピー犬を気兼ねなく呼べる仕組みづくりや、NPO法人・民間ボランティアの皆さまの活動を活性化する補助的な役割として、本市としても支援金の新たな捻出方法等の整備や行政と各団体が連携できる道筋や施策は無いのか、今後も福祉全般的に研究・模索していきたい。
-----------------------------	---

【視察先写真】



以 上

視 察 者	柴田敏光・鈴木英樹・瀬戸清太郎、原紀彦														
視 察 日 時	令和7年4月18日(金) 10時00分～11時30分														
視 察 先 ・ 概 要	東京都 三鷹市【人口】190,497人 【面積】16,42k㎡ 【世帯数】97,663世帯														
視 察 内 容	犬への本の読み聞かせについて														
選定理由(目的)	子ども読書調査が行われ、読書離れが示されており、本への関心を持たせることを本市として取り組むべきであると考え。小学生が本を読むのに、大人を前にして読むと指摘され読めなくなる、またどもって読めなくなるなどの報告を受けている。気持ちが楽に本読みができるように環境を整えることが重要である。読書犬を前に読み聞かせをすることで抵抗なく本を読む習慣が身につくようになる。三鷹市では、図書館で犬への本の読み聞かせを行っている事で今回の視察先として選定した。														
岡崎市の現状と課題	岡崎市では、読書犬にて図書館で活動をできるように働きかけているが、岡崎市として受け入れていただけないことから、今後読書犬を通じて子供たちの本に対する関心が高めよう理解をしていただけることが大事である。														
視 察 概 要	【わん！だふる読書体験の概要】 ■ 目的 ・犬の正しいふれあい方を学ぶ ・新たな本との出会いのきっかけをつくる ・新たな読書の楽しみ方、読書の楽しさを知る ・本を通じて、人と犬がふれあい、つながる ⇒学び、気づき、心の成長に働きかける ■ わん！だふる読書体験を継続できる理由 ・子ども・保護者＝図書館＝JAHA 三者が WIN-WIN の関係 わん!だふる読書体験による成果  <table border="1"> <tbody> <tr> <td>共感力を育む</td><td>犬の気持ちを考えて行動する</td></tr> <tr> <td>新たな本との出会い</td><td>犬のことを思って本を選ぶ</td></tr> <tr> <td>読書力・読書意欲の向上</td><td>読み聞かせを練習し、自信を身に付ける</td></tr> <tr> <td>自主性・主体性を育む</td><td>本を選ぶ、読みきかせの練習をすることを、子ども自身が率先して行う</td></tr> <tr> <td>自己肯定感を高める</td><td>間違えたとしても指摘されることがなく、自分のペース、自分のやり方で本を読み終えることで達成感を得る</td></tr> <tr> <td>命の尊さを知る 社会性を育む</td><td>犬に触れること、ぬくもりを感じることで ふれあい教室で学んだことを、普段の生活で実践する</td></tr> <tr> <td>想像力・創造力を育む</td><td>犬を思っで行う読み聞かせ、絵本・物語そのものが、子ども一人ひとりに想像(創造)力を与える</td></tr> </tbody> </table>	共感力を育む	犬の気持ちを考えて行動する	新たな本との出会い	犬のことを思って本を選ぶ	読書力・読書意欲の向上	読み聞かせを練習し、自信を身に付ける	自主性・主体性を育む	本を選ぶ、読みきかせの練習をすることを、子ども自身が率先して行う	自己肯定感を高める	間違えたとしても指摘されることがなく、自分のペース、自分のやり方で本を読み終えることで達成感を得る	命の尊さを知る 社会性を育む	犬に触れること、ぬくもりを感じることで ふれあい教室で学んだことを、普段の生活で実践する	想像力・創造力を育む	犬を思っで行う読み聞かせ、絵本・物語そのものが、子ども一人ひとりに想像(創造)力を与える
共感力を育む	犬の気持ちを考えて行動する														
新たな本との出会い	犬のことを思って本を選ぶ														
読書力・読書意欲の向上	読み聞かせを練習し、自信を身に付ける														
自主性・主体性を育む	本を選ぶ、読みきかせの練習をすることを、子ども自身が率先して行う														
自己肯定感を高める	間違えたとしても指摘されることがなく、自分のペース、自分のやり方で本を読み終えることで達成感を得る														
命の尊さを知る 社会性を育む	犬に触れること、ぬくもりを感じることで ふれあい教室で学んだことを、普段の生活で実践する														
想像力・創造力を育む	犬を思っで行う読み聞かせ、絵本・物語そのものが、子ども一人ひとりに想像(創造)力を与える														

■保護者にとっての成果



【効果】

- ・子ども達が短い間で成長が見れる
- ・考えて行動ができた
- ・誰かのために何かをするという体験ができた
- ・恥ずかしい感じで行っていたが、リラックスしてできるようになった
- ・終了後、笑顔で子どもが帰ってくるようになった
- ・本を読まない子が、読むようになった

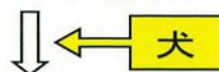
■わん！だふる読書体験の可能性

◆ 今の子どもを取り巻く環境は、

コミュニケーションツール・情報収集ツールが多様化

◆ このような時代だからこそ、

目標・評価がなく、純粹に本を楽しむ、本に向き合う



子どもの心に働きかける

「本と犬」「読み聞かせと犬」という組み合わせ
⇒ 子ども一人ひとりの成長を促す

【調査】

- ・欧米とは違い、犬との接し方が慣れていない
- ・ふれあい教室を行い、読み聞かせと2段階で始まる
- ・犬とのふれあいでの事故は30年以上ない
- ・3つの約束①走らない②突然触らない③突然大きな声を出さない
- ・図書館内での犬による読み聞かせを行うことを数日前からアナウンスする。また当日は張り紙にて周知する。
- ・子どもにアレルギーがないかチェックしている。
- ・読み聞かせ終了後、反省会を行っている。図書館職員も参加している。反省会を通じてブラッシュアップしている。
- ・1日8人を年5回実施している。
- ・4月から6月、あと冬場に行く。夏場は犬の負担が大きいので行わない。

【質問】

Q：事故が発生した時の保険はどうなっているのか？

A：市の事業に対する保険を適用する

Q：対象年齢は？

A：小学生が対象となる

Q市として予算計上しているのか？

Aすべてボランティアで行われている

本市への反映
(意見・課題など)

【柴田敏光】

子どもの読書離れが大きく数字となって示される中、本への関心を高めることが必要であるとする。

本市に読み聞かせを行うために働きかけをしている団体があるが、本市の理解を得られていないという事であり、犬への読み聞かせの現状を確認すべきであるとする。

三鷹市を調査した中で、提言をいただいたのが職員の体験であります。また市としてトップ（所属長）の判断が必要であるという事である。

本市では、アニモで犬との触れ合いイベントを行っているが、まずアニモで読み聞かせを行って検証することを行うのも一つの案ではないかと考える。

活動団体は、ボランティアで行っていることから市としての予算は計上することはない。

犬は飼い主がそれぞれ健康診断及びシャンプーをして参加している。

三鷹市では、毎回抽選となるほど人気の高いイベントとなっている。

【鈴木英樹】

犬への読み聞かせを通じ、子ども達が本への興味の向上及び子ども自身の成長に繋がっていることを確認した。特に3つの観点で参考になりました。1点目、「わん！だふる読書体験」の位置付け、ターゲットなどが明確で理念的に整理されていたこと。2点目、立ち上げ当初から、ジャーナリスト、図書館館長（行政側）、日本動物病院協会（JAHA）、飼い主（ハンドラー）と連携が取れる環境を整備し進められたところ。3点目、イベントに参加される方や、一般的な図書館利用者への配慮を考えながら事業運営されていることです。

本市についても、まずは図書を通じ動物愛護と子たちの成長を願う方たちで、活動の理念的な構築を図り、想いを共有し活動できる連携組織の体制整備が必要と考えます。その活動を通じ、本市の子ども達の自立心の向上と動物愛護が根付くことを期待するものです。

【原紀彦】

わん！だふる読書体験は、セラピー犬に読み聞かせる形式は、子どもが緊張せずに読書を楽しめる環境を提供。特に読書が苦手な子どものモチベーションを高め、読む楽しさを発見させることなど、子どもの読書意欲や情緒的成長を促し、コミュニティを活性化する優れたプログラムだと考える。しかし、本市に導入するには JAHA との連携やアニマルセラピーの育成や継続的な事業にするための体制整備などさまざまな課題を整理する必要がある。

【瀬戸清太郎】

アニマルセラピー（動物介在活動）の一端であるセラピードッグへの読み聞かせ体験は、こどものやさしさや思いやりの醸成といった健やかな成長を促す取り組みと理解できた。

課題の一端として、こうした福祉活動には、JAHA 等のボランティア団体が介在し、犬の清潔・健康管理・しつけや活動後の清掃を奉仕で行っており、公的な施設で活動するにも行政支援が必要となっている。本市も、子ども真ん中社会の実現に向けた政策や全ての市民が安心して暮らせる地域社会の実現を目指し、高齢者、障がい者、子育て世帯、生活困窮者など、それぞれのニーズに応じた支援を銘打っており、積極的にアニマルセラピーを取り入れることを考察し、子育てや福祉全般の支援の底上げをする必要があると推察する。